

リバティアカデミー 自己点検・評価報告書

I. 理念・目的

自己点検・評価（2009年度の実績）

1. 目的・目標

(1) センター・委員会の理念・目的

リバティアカデミーは、本大学における教育・研究の成果を公開する継続的・体系的学習プログラムを、本大学の学生及び卒業生並びに広く社会一般に提供し、生涯にわたる継続的な学習の支援や、資格取得等職業能力の再開発及び向上を図るために教育活動を行うことにより、大学の開放及び生涯学習事業の推進に寄与することを目的とする、

(2) 養成すべき人材像

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

(3) 教育研究の目的

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

(1) センター、委員会等の理念・目的は適切に設定されているか

① 理念・目的の明確化

2005年度に制定されたリバティアカデミー規程において、設置・目的・事業内容・それを支える組織について明記している。

② 実績や資源から見た理念・目的の適切性

教育・研究と並ぶ第三の柱としての社会貢献を果たす目的として適切である。

③ 個性化への対応

本学らしい独自の体系と質量をもって講座の充実を図る理念の下で、リバティアカデミー規程が制定されている。

(2) センター、委員会等の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか。

① 構成員に対する周知方法と有効性

リバティアカデミー公式Webサイト「Knowledge Café」にて周知するとともに、前期・後期リバティアカデミーパンフレットを各教員及び各課・事務室へ配付し、生涯教育機関としての理念等を、広く周知する方策として有効である。

② 社会への公表方法

前期・後期のリバティアカデミーパンフレットやリバティアカデミー公式Webサイト「Knowledge Café」、広報紙「ACDEMY PRESSO」、その他の広報媒体などで理念・目的を具体化した講座募集などの広報活動を行なっている。また、地方自治体等との連携についても「Knowledge Café」にて公開している。

(3) センター、委員会等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

全講座で受講生にアンケートを実施して講座満足度を調査している。その結果は講師へフィードバックするとともに、次年度の開設する講座企画の参考としている。講座企画については、アカデミーの下に設置された各カテゴリーの専門部会において、リバティアカデミーの理念・目的に沿った講座であるかを検証している。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

リバティアカデミーの規模の拡大とそれに伴う広報活動の充実は、明治大学の生涯教育機関としての理念等を、広く周知する方策として有効であり、2009年度の講座数は380講座、受講者数は22,640名と一学部に匹敵する規模となった。

また、地方自治体等からの連携講座の依頼も増え、2009年度は天童市との連携講座が始まった。

(2) 改善すべき点

新規講座の提案が増えるのに伴い、リバティアカデミーの理念・目的から離れた講座提案も増加している。本学における教育・研究の成果を公開するという主旨の周知を徹底していく。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

毎年行っている全専任教員への講座提案依頼書に、リバティアカデミーの理念・目的を明記し、教授会等において周知を図る。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料1 明治大学リバティアカデミー規程

資料2 講座終講時アンケート集計表

II. 教育研究組織

自己点検・評価（2009年度の実績）

1. 目的・目標

(1) 目的・目標

学長をアカデミー長とする運営体制の下で、必要に応じて規程を整備していく。

(2) 教育研究組織の編成方針

現在、新しい評価項目にあわせ記述を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

(1) センター、委員会等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

①教育研究組織の編成原理

2005年に責任ある教育体制を確立し、本学らしい特色ある講座の充実を図るため、「リバティアカデミー規程」を制定し、学長をアカデミー長とする運営体制を確立した。現在、全学部から選出された委員等で構成する運営委員会を中心として、教員の協力のもとにリバティアカデミー事業を推進している。

②理念・目的との適合性

リバティアカデミーは、本学教員がコーディネータとして「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムを産業社会や地域社会に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて「開かれた大学」としての姿を追求している。

③学術の進展や社会の要請と適合性

リバティアカデミー運営委員会の下に置かれた専門部会を強化し、「質」の向上と体制強化を図る。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

リバティアカデミーの社会的評価は講座や受講生の増加によって知ることができる。また、2009年度に長和町で実施した「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」では、実行委員会を立ち上げ、プロジェクトが円滑に遂行された。実行委員会が適切に機能していたかは、評価委員会により検証される。

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

駿河台キャンパスを中心に展開しているが、和泉及び生田キャンパスでの展開に向けて組織基盤の整備を図る。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

和泉キャンパス展開専門部会、生田キャンパス展開専門部会を招集し、方向性を議論していく。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料1 明治大学リバティアカデミー規程

資料2 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業評価委員会名簿

資料3 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書

III 教員・教員組織

自己点検・評価（2009年度の実績）

1. 目的・目標

(1) 目的・目標

幅広く多くの教員の協力が得られやすい基盤づくりを進めるとともに、リバティアカデミー講師としての評価体制を構築する。

(2) センター、委員会等の求める教員像

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

(3) 教員組織の編成方針

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

(1) センター、委員会等として求める教員像及び教員組織の編成方針を明確に定めているか

① 教員に求める能力・資質等の明確化

2006年度に制定されたリバティアカデミー講師任用基準（内規）により、講師として任用することができる者を具体的に定めている。

② 教員構成の明確化

2009年度にリバティアカデミー講座に関わった専任教員出講一覧を作成し、各学部にフィードバックした。

③ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係わる責任の明確化

講師委嘱の発令時に、任用された講師に対して、リバティアカデミー講師に関するガイドラインを示し、講師としての基本姿勢、責務を明確にしている。

(2) センター、委員会等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

① 編成方針に沿った教員組織の整備

リバティアカデミー講師任用基準に講師の資格を定め、本大学の公開学習プログラムを提供するに相応しい教員を任用している。

② 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備

リバティアカデミー規程に定める事業を推進するために、開設及び開講に関する事項を定めたリバティアカデミー講座の開設及び開講基準（内規）が制定されている。講座及び担当教員の適合性については、見直していく体制は図られている。

③ [大学院] 研究科目担当教員の資格の明確化と適正配置

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか

① 教員の募集・採用・昇格等に関する規程及び手続きの明確化

年に一度、全専任教員に向けてリバティアカデミー講座の講師協力を要請している。

②規定等に従った適切な教員人事

リバティアカデミー講師任用基準（内規）の資格に該当する、アカデミーにおいて教育を行う能力があると認められた者を任用している。

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか

① 教員の教育研究活動等の評価の実施

受講生に講座終了時にアンケートを実施し、受講生の満足度を調査している。そのなかに講座内容や担当講師の項目があり、評価の対象にしている。

また、2004年度から、講座の成果に基づく論集・報告集としリバティアカデミーブックレットを刊行している。申請された論文等は、アカデミー運営委員会の下に設置される審査委員会の審査を経て刊行される。2009年度は3冊が刊行され、通算で13冊となった。

②FDの実施状況と有効性

全講座の受講生に講座満足度のアンケート調査を実施している。その結果を講師へフィードバックすることで、講師は授業評価を知ることができる。

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

ブックレットの評価は高く、講座の教材としても利用され、2009年度は224冊が販売され、教育研究成果広く社会に発信した。

(2) 改善すべき点

年々担当講師は増えているものの、一部の教員に多くの負担をかけている傾向があり、多くの教員に講座を担当していただくための方策をたて、実施する。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

教授会にて講師募集を周知するとともに、運営委員会の下に置かれた専門部会を強化し、講座を担当できる教員を増やす。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料1 明治大学リバティアカデミー講師任用基準（内規）

資料2 リバティアカデミー講師に関するガイドライン（任用様式2号）

資料3 明治大学リバティアカデミーブックレット11・12・13号

資料4 明治大学リバティアカデミーブックレットの発行に関する内規

資料5 ブックレット発行に関する内規

資料6 明治大学リバティアカデミーブックレット審査委員会名簿

IV. 教育内容・方法・成果

全学報告書参照

V 学生の受け入れ

実績・データ

過去3年度の会員数と受講者数

	2007年度	2008年度	2009年度
個人会員数(人)	15,059	15,875	15,307
個人会員数(社)	59	53	51
受講生数	22,374	21,590	22,640

自己点検・評価（2009年度の実績）

1. 目的・目標

(1) 目的・目標

リバティアカデミーは、年齢、性別、学歴等を問わず、誰でも入会ができ、多様な世代からの受け入れを目指す。

(2) 学生の受け入れ方針

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

(3) 求める学生像

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

① 求める学生像の明示

リバティアカデミーは、会員制であるが、会員の登録は、年齢、性別、学歴を問わず、誰でも入会できる。前期と後期に講座の募集を行っている。

また、ビジネスプログラムを対象とした法人会員制度があり、法人会員制度の案内パンフレットで法人会員を募集している。

②当該課程に入学するに当たり、習得しておくべき知識等の内容・水準の明示

③障がいのある学生の受け入れ方針

障がい者の受講に伴い、介助するボランティアの無料参加を認めるなど、柔軟な対応をしている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

①学生募集方法、入学者選抜方法の適切性

前期および後期に発行されるリバティアカデミーパンフレットにて、受講生を募集している。パンフレットは、リバティアカデミー会員、学生、校友、校友会役員、父母会役員、企業、自治体等に幅広く送付している。また、リバティアカデミーの公式 Web においても公開している。

(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか

①収容定員に対する在籍学生数比率の適切性

②定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応

(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか

①入試問題を検証する仕組みの導入状況

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

講座の充実とともに、誰でも入会できることが会員数の増加につながり、受講生は順調に拡大している。

(2) 改善すべき点

法人会員数は、2007 年度をピークに減少している。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

法人会員制度の案内パンフレットの改訂版を作成するとともに、積極的な広報展開を行う。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料 1 法人会員制度のご案内パンフレット

VI 学生支援

実績・データ

リバティアカデミーにおける資格試験講座受講者受験者・合格者（2009年度受験）

資格名	受験者	合格者	合格率	全国合格率
通関士講座	18名	1名	5%	7.8%
総合旅行業務取扱管理者講座	11名	3名	27.2%	15.1%
教員採用試験講座	36名	20名	55.5%	*21%
販売士（2級）講座	14名	14名	100%	55.4%
秘書検定（2級）講座	5名	4名	80%	48.9%
秘書検定（準1級）講座	25名	24名	96%	55.6%
ビジネス能力検定（2級）講座	12名	11名	91.7%	34%

※ 教員採用試験の全国平均合格率は、「平成22年度東京都公立学校教員採用候補者選考結果について」より

自己点検・評価（2009年度の実績）

1. 目的・目標

資格取得を目指す講座を設置し、本学学生の資格取得、就職活動の支援を行う。

（1）目的・目標

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

（2）学生支援に関する方針

現在、新しい評価項目にあわせて記述を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

（1）学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか

①学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化

資格取得を目指す講座を設置し、受講を決定する前に講座のガイダンスを複数回開催している。ガイダンスはHP、Oh-meijiシステムを通して、学生に周知する。

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか

①留年者及び休・退学者の状況把握と対処の適切性

②補習・補充教育に関する支援体制とその実施

講座を欠席した際は、欠席フォローとして、講座録音のダビングサービスを行っている。

また、講座によっては自主勉強会を実施する。

③障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性

図書館司書講習において、障害者を受け入れ、指導教員による面接を重ね、本人の意向を取り入れた授業措置を行った。

④奨学金等の経済的支援措置の適切性

受講料については、学生料金を設定して経済的負担を軽減している。

(3) 学生の生活支援は適切に行われているか

①心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮

②ハラスメント防止のための措置

(4) 学生の進路支援は適切に行われているか

①進路選択に関する指導・ガイダンスの実施

②キャリア支援に関する組織体制の整備

3 評 價

(1) 効果が上がっている点

資格試験の合格率は、全国平均合格率を上回る結果となっている。

(2) 改善すべき点

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

受講生に継続的な学習を保証するために、リバティアカデミー独自の履修証書及び称号授与を行っている。また、ビジネスプログラム受託研修生への称号授与基準を設け、2010年度からの実施を目指す。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

リバティアカデミーの履修証書及び称号授与に加えて文部科学省による履修証明制度が活用できる条件を整備し、実施を目指す。

5 根拠資料

資料1 明治大学リバティアカデミー資格・実務・語学講座パンフレット

VII 教育研究等環境

自己点検・評価（2009年度の実績）

[VII-3 研究環境等]

1. 目的・目標

リバティアカデミーは、アカデミーコモンを中心に生涯教育を展開しているが、講座数の増加に伴い、教室不足の問題が浮上している。量的拡大のみならず、質の充実への転換を図ると同時に、教室の効率的な運用に努める。

2. 現状（2009年度の実績）

(1) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか

①教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備

生涯教育の拠点として、2004年にアカデミーコモンがオープンした。11階に教室の他、自習室、交流サロンも設置されており、有効に活用されているが、ここ数年の急成長で教室の不足は深刻な問題となっている。

②ティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）・技術スタッフなどの教育研究支援体制の整備

③教員の研究費・研究室及び研究専念時間の確保

(2) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか

①研究倫理に関する学内規程の整備状況

②研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性

3 評価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

時間帯により、アカデミーコモンだけでは教室数が不足し、リバティタワー及び12号館の一部を使用しているが、講座によっては毎回教室が変わることもあり、講座運営に支障を来たしている。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

午前中の教室の稼働率を上げ、教室の効率的な運用を努める。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

環境整備のために、教室の増設を年度計画書などにより改善を図る。

5 根拠資料

資料1 アカデミーコモン1階教室使用状況一覧表

資料2

VIII 社会連携・社会貢献

全学報告書参照

IX 管理運営・財務

自己点検・評価（2009年度の実績）

[IX-1 管理運営]

1. 目的・目標

(1) 目的・目標

学長をアカデミー長とする運営体制が確立しており、全学部から選出された委員等で構成する運営委員会を中心にリバティアカデミー事業を推進している。事務組織は、事務局として参画しているが、運営委員会をサポートし、教学組織と連携協力関係を強化する。

(2) 管理運営方針

現在、新しい評価項目にあわせて記述内容を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか

①中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知

近年増加する社会連携事業に対応するためには、大学の広報戦略の一環として全国に視野を広げた自治体連携を推進していくことが求められており、教育・研究に関する長期・中期計画書において、地域連携を担う新たな組織の設置を要望している。

②意思決定プロセスの明確化

リバティアカデミー長を長とする運営委員会に常任委員会が置かれ、運営委員会に付議する事項を整理し、運営委員会の決定事項の推進に当たっている。

④委員会の権限と責任の明確化

明治大学リバティアカデミー規程により、運営委員会の設置が明記され、権限及び責任が明確となっている。また、運営委員会に置かれている常任委員会についても明確化され、適切に運営されている。

(2) 明文化された規定に基づいて管理運営を行っているか

①関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用

②アカデミー長等の権限と責任の明確化

明治大学リバティアカデミー規程により、アカデミー長及び副アカデミー長の権限及び責任が明確化されている。

③アカデミー長等の選考方法の適切性

明治大学リバティアカデミー規程により、アカデミー長は学長をもって充てることが明記されている。副アカデミー長においては、理事会任命事項であることが明記され、適切な選考となっている。

(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか

①事務組織の構成と人員配置の適切性

リバティアカデミーの運営にかかる事務組織は学術・社会連携部社会連携事務室が担当する。専任職員6名が事業企画を担当し、派遣職員3名がサポートする。講座運営については業務委託で対応している。専任職員が企画・立案し、運営を業務委託する態勢は上手く機能している。

②事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策

リバティアカデミーが提供する各種講座、自治体等との連携事業はメディアを活用して積極的に情報を発信し、求められる情報をタイムリーに提供することが望ましい。ホームページの充実などは重要課題であるが、現状の人員では充分な取り組みが困難であるため、技術を備えた人材を派遣職員として要望し、サポート体制を整えている。

(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか

①人事考課に基づく適正な業務評価と待遇改善

専任職員が企画・立案し、運営を業務委託する体勢がうまく機能している。

②スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性

リバティアカデミーが実施する講座、大学が実施する目的別研修など積極的に参加している。

3. 評 価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

近年、自治体連携を推進していくことが求められており、専任職員の増員と地域連携を担う新たな組織が必要である。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

自治体との連携事業が増加しており、そのための態勢つくりを運営委員会等において検討する。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

社会連携はリバティアカデミーと地域連携を担う部署に分かれ、相互に協力して自治体連携を推進する。

5 根拠資料

資料1 明治大学リバティアカデミー規程

資料2 教育・研究に関する長期・中期計画書

X 内部質保証

自己点検・評価（209年度の実績）

1. 目的・目標

（1）目的・目標

生涯学習事業を推進するため、組織や活動についての点検・評価を不断に行い、問題点を解決していく。

（2）内部質保証の方針

現在、新しい評価項目にあわせて記述内容を検討中

2. 現状（2009年度の実績）

（1）センター、委員会等の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか

①自己点検・評価の実施と結果の公表

明治大学自己点検・評価規程に基づき、自己・点検評価報告書を作成、提出している。また、文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」では、評価委員会を組織し、毎年各プロジェクトを評価する報告書を作成、提出している。

②情報公開の内容・方法の適切性、情報公開請求への対応

リバティアカデミーが提供する各種講座は、メディアを活用して積極的に発信し、求められる情報を提供している。

（2）内部質保証に関するシステムを整備しているか

①内部質保証の方針と手続きの明確化

リバティアカデミー講座については、全講座で受講生にアンケートを実施して講座満足度を調査している。全講座で実施しているアンケートには、講座の満足度・担当講師・講師内容・講座施設・講座料金・事務局対応・その他を5段階評価で求め、評価の理由欄では意見を自由に記述できる方式となっている。

②内部質保証を掌る組織の整備

アンケートの集計結果については、リバティアカデミー運営委員会にて公表するとともに、アカデミーの下に置かれている各種専門部会においても、検証されることとなる。

③自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムの確立

④構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底

(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか

リバティアカデミーの受講生に関する個人情報保護について、リバティアカデミーパンフレットに明記するとともに、学校法人明治大学個人情報保護方針に基づき、適正に取り扱っている。

①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実

アンケートの結果を講師へフィードバックすることにより、各講師が自己点検を行い、次年度の開設する講座企画に反映させる。

②教育研究活動のデータ・ベース化の推進

③学外者の意見の反映

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」では、本取組の企画内容、受講効果、成果達成度などについて、調査やヒヤリングを行うため、学外者3名を含めた評価委員会を設置した。

④文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項の対応

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

自己点検評価に対する評価委員会が設置されていない。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

(2) 長中期的に取り組む改善計画

自己点検評価に対する評価委員会を設置する。

5 根拠資料

資料1 明治大学自己点検報告書

資料2 講座終講時アンケート集計表

資料3

資料4

資料5